



◀村上ひろし公式ホームページ

〒862-8601 熊本市中央区手取本町1-1

TEL(096)328-2650 FAX(096)324-7777

2025年10月発行

9月議会報告

補正予算額29億円余を可決

「給食調理場にエアコン設置費用25億円余」含む81議案が可決

熊本市議会の9月定例会は、9月1日に開会し、25日に閉会しました。一般会計補正予算として計上された29億円余が可決されました。主な内容は、空調設備が未設置であった市立小中学校や94か所の給食調理場へのエアコン設置経費(25億4千万円)です。

エアコン設置工事は、夏休みや春休みなど学校の長期休業期間を利用して実施されます。加えて、大雨時の被害防止のための土嚢(どのお)の緊急補充経費として1千万円が計上されました。さらに、来年(2026年)に熊本地震から10年を迎えることから、記録映像集やパンフレット制作などの経費として5,800万円余が盛り込まれています。

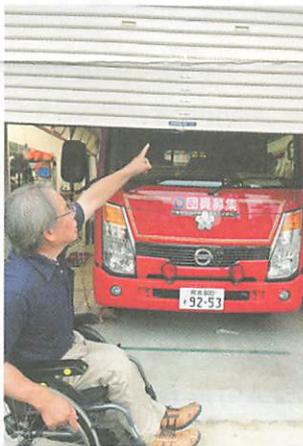
なお、9月25日の閉会日に、提出された81議案はすべて可決・成立しました。

内水氾濫の脅威

8月10日の大雨により、熊本市内のあちこちで被害が相次ぎました。

川の氾濫と違い、排水溝などで排水し切れずに冠水した今回の被害は、内水氾濫と呼ばれています。

ビルの地下で営業されていた喫茶店などのテナントでは、階段が滝の様な状態となり、天井にまで水位が達しました。支援策が補正予算に盛り込まれましたが、必ずしも十分ではなく、被災された方々には心からお見舞い申し上げます。



壺川消防小屋のシャッターの中ほどまで冠水し、水の圧力で曲がってしまい、消防自動車が車庫から出せなかったとのこと。



壺川消防小屋の真向かいにある壺川公民館も冠水。指さしている所まで冠水したとのこと。



8/10、消防小屋に駆け付けた壺川消防団長さんが道路面から50cmほど冠水した際の公民館のドア付近の様子。

女性消防

火災・水害・地震などの災害に備え、日頃から訓練に励む地域の消防団。8月31日の猛暑日、消防学校のグラウンドで行われた女性消防団の操法訓練を見学しました。

猛暑日の消防操法訓練

災害現場では「人命が第一」。事前に時間をかけて打ち合わせる余裕はありません。服装やヘルメットの装着といった細かな確認も、普段の訓練で身に付けておく必要があります。

「目標は正面の火点、操作はじめー！」の号令一下、団員たちはホースを肩にかつぎ、火元を想定した火点へと走ります。到着後は、一人がポンプまで戻り送水を指示。スイッチが入ると水が勢いよく放たれます。全ての動作には、きびきびとした動きと大きな声が求められます。現場では指示を聞き直す余裕はなく、時間との戦いだからです。

この日は、猛暑の中で全力疾走の訓練が4回繰り返されました。



トピックス 女性消防団員を知っていますか？



現在、熊本市内には140名(令和7年4月1日現在)の女性消防団員が登録され、災害時の被災者支援など後方活動で力を発揮しています。大学生を中心とした防災サポーターが約200名いる一方で、女性消防団員の数はわずかに増えている程度です。人数は少ないものの、日々の訓練には真剣に取り組んでいます。消防団員には手当も支給されますが、続けるには地域や防災への想い、そして強いボランティア精神が不可欠です。

団奮闘記

操法大会へ向けて「操作、始めっ！」

8月31日、猛暑のなか消防学校グラウンドで、熊本県操法大会を前にした訓練が行われました。災害現場での救助活動は、日ごろの訓練を通じて技術と意識を磨くことから始まります。

直接の消火活動を担う男性消防団に対し、女性消防団は被災者対応など後方支援を主な役割としています。操法訓練は、その意識を育む大切な場でもあります。ホースを肩に、きびきびと走る団員の姿を目の当たりにし、多くの市民にもぜひ知っていただきたいと感じました。



作戦会議中!!



送水、始めえ～



地球温暖化の影響もあり、海外では大規模な山火事のニュースが報じられます。少子高齢社会が進む日本においても、災害時の地域力が問われています。



石破総理、辞任を表明

9月7日、石破総理大臣は、記者会見で「辞任」を表明し、石破内閣は1年間の短命内閣となりました。「New&Goods.17」が発行されるときには新内閣が来ていることと思いますが、次の総理大臣が誰になっても、平和憲法を遵守し、国民の生活、国民の基本的な権利、国民の生存権を第一に考える政治が求められていることに変わりはありません。自民党内の派閥力学で選ばれることがないことを強く望み、私たち国民は新内閣の政治姿勢をしっかりと注視していくことが重要です。

— 戦後80年を考える —



『戦後80年の影に・・・』

今年の夏、8月15日は戦後80年の節目であり、報道メディアが様々な角度から検証番組を報道しました。

私にとっても、家族にとっても、現在を生きることが「奇跡」では、と思えるほど戦争との関わりがありました。それは、身体の震えが止まらなくなる様な出来事でした。その驚愕の事実を知ったのは、88歳で亡くなった父の日記に記されていたからです。

『未明の空を焦がす熊本大空襲』

終戦が間近だった頃、アメリカ軍は日本の住宅のほとんどが木造であることを分析し、B29爆撃機から焼夷弾を投下させ、火の海にさせる「大空襲」を全国の主要な都市に行ったのです。

熊本では7月1日から2日の未明にかけ、百数十機のB29爆撃機の大編隊が来襲し、20万発もの焼夷弾を投下した「熊本大空襲」により、熊本市内全域の住宅が燃えてしまい、一面焼け野が原となったのです。

私の両親は、当時、白川小学校から100mも離れていない新屋敷に住んでいました。7月1日の早朝、両親は食糧調達のため、母の実家の下益城郡豊野村(現 宇城市豊野町)に出かけていました。豊野村は熊本市内から20数km離れていますが、7月2日未明の熊本大空襲により熊本市内の空があかね色に染まっている様子が豊野村からでもはっきり分かったそうです。

『歩くしかない移動手段』

熊本大空襲のあと、両親は国鉄(現 JR)松橋駅から熊本駅に向かいましたが、線路が破壊されており、宇土駅までしか行けず、歩いて新屋敷の自宅に向かったそうです。

父は新屋敷の自宅で凄惨な光景を目にしました。防空壕の中で、隣の家族と一緒に焼け死んでいた兄(私の伯父)を発見したのです。私が驚いたのはその後の父が取った行動です。付近の焼け残った木材を集め、兄(伯父)の遺体を茶毘に付したそうです。そのことも、父が亡くなった後、遺品の日記を読んで知りました。

『辛すぎる戦争体験』

私の「伯父」を茶毘に付したことは、余りにむごく辛い出来事だったためか、父は私たち4人の子どもには話をしませんでした。茶毘に付した時、父はどんな想いで、どんな気持ちで伯父を火葬したのか、私には想像も出来ません。当時、結婚間もなく4人の姉兄弟の誰も産まれていませんでした。

『最前線に送られる前に』

伯父は福岡の連隊に所属していましたが、中国戦線に送られる前に1日だけ休みを与えられ、弟である父に会うために熊本に来たことが、父の日記に記されていました。

『最後の別れが実現していたら』

もし、両親が豊野村への食糧調達のタイミングがずれていたら、新屋敷で父は兄である私の伯父と会っていたでしょう。そうなると、両親も「熊本大空襲」の犠牲者として亡くなっていたはずでした。

もし、そうならなければ、私の高校入試にまつわる「15歳の春」で、M高校の校長から、「貴方がここ(M高校)に来るのは迷惑」と暴言を浴びせられたり、また「他の生徒に故意に階段から突き落とされても責任を求めないなら、入学を認める」などと私の命を虫ケラ同然の扱いを受けることもなかったでしょう。何故なら、両親が熊本大空襲で亡くなれば、私たち4人の姉兄弟はこの世に産まれることなく、生存していなかったからです。熊本でも多くの市民が「熊本大空襲」の犠牲者になりました。戦争の悲惨さ、無惨さを自分ごととして想像する事なしに実感することは出来ないと思います。

『生かされたからこそ、生きている意味がある』

伯父は不本意だったことでしょうか。しかし、私たち村上家の戦後80年を考える時、伯父が身代わりとなった事で今の自分がある、と思えて仕方ありません。

人生半ばで熊本大空襲の犠牲者となった伯父を偲びながら、誰一人として戦争で命を落とすことがない平和な世の中になる事を心から願うばかりです。